

専門分野 I 基礎看護学	科目名：看護学概論	★ 専任教員（看護師）	1 単位 30 時間 (1 年次前期)
学習目標	1. 看護の本質を理解し、看護の概念を理解する。 2. 看護の対象としての人間を身体的・精神的・社会的統一体として学ぶ。 3. 人間にとっての健康の意義について理解する。 4. 保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解し看護活動のありかたを理解する。 5. 看護の歴史を通して、現在の看護の位置づけ及び諸問題を理解する。		
回数	主題	主な学習内容	講義形態
1	1. 看護とは	1) 看護の本質 2) 看護の役割と機能 3) 看護理論家の看護概念	講義
2			講義
3			講義
4	2. 看護の対象の理解	1) 人間のこころとからだ 2) 生涯発達し続ける存在としての人間	講義
5	3. 国民の健康状態と生活	1) 健康とは 2) 国民の健康状態 3) 国民のライフサイクル	講義
6			講義
7	4. 看護の提供者	1) 職業としての看護 2) 看護職の資格・養成制度・就業状況 3) 継続教育とキャリア開発 4) 看護職の養成制度の課題	講義
8			
9			
10	5. 看護における倫理	1) 職業倫理と看護倫理 2) 患者の意思決定支援と守秘義務 3) 倫理的ジレンマ	講義
11	6. 看護提供のしくみ	1) サービスとしての看護 2) 看護提供の場とチーム医療 3) 継続看護 4) 看護をめぐる制度と施策 5) 看護サービスの管理 6) 医療安全と医療の質保証	講義
12			講義
13			講義
14	7. 広がる看護の活動領域	1) 国際化と看護 2) 災害時における看護	講義
15	終講試験	筆記試験、まとめ	
履修上の留意点		1. 常に持参のテキストは「看護学概論」 他は必要時指示	
1) テキスト 2) 参考書		1) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学(1)看護学概論 医学書院 2) F. ナイチンゲール著：看護覚え書き，現代社 2) 日本看護協会監修：看護者の基本的責務一定義・概念/基本法/倫理， 2) ヴァージニア・ヘンダーソン：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会	
評価方法		1. 筆記試験 2. レポート	

★ 実務経験がある教員

専門分野 I 基礎看護学	科目名：共通基本技術	★ 専任教員（看護師） ★ 専任教員（看護師） ★ 専任教員（看護師）	1 単位 30 時間 (1 年次後期)
学習目標	1. 看護活動における基本的技術を理解する。		
回数	主題	主な学習内容	講義形態
1	1. 人間関係発展の技術	1) コミュニケーションの意義・目的 2) 良好なコミュニケーションに必要な技術 3) コミュニケーション障害への対応 * 人間関係論で学んだ信頼関係の構築など	講義 GW
2			講義 演習
3			演習
4	2. 看護における観察・記録・報告	1) 看護記録とは 2) 記載・管理における留意点 3) 看護記録の構成	講義
5			講義
6	3. 感染予防	1) 意義 2) 標準予防策 3) 無菌操作 4) 感染性廃棄物の取り扱い 5) 針刺し防止	講義 演習
7			講義
8			講義
9			演習
10	4. 安全確保	1) 安全管理対策 2) 誤薬防止 3) チューブ類の予定外抜去防止 4) 患者誤認防止 5) 転倒・転落防止 6) 薬剤・放射線曝露の防止	演習
11			演習
12	5. 学習支援	1) 看護における学習支援とは 2) 様々な場で行われる学習支援 3) 健康状態の変化に伴う学習支援 4) 個人・家族・集団を対象とした学習支援	講義 演習
13			演習
14	技術確認	感染対策に関する技術のチェック	講義
15	終講試験	筆記試験/まとめ	
履修上の留意点		<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義・演習形式を基本とするが、学生の学びを促すために適宜グループワークを取り入れる。 ・ 提示する DVD・動画を活用し校内実習前後の自己学習を行い参加する。 	
1) テキスト 2) 参考書		1) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 医学書院 1) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II 医学書院 2) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院	
評価方法		1. 筆記試験	

★ 実務経験がある教員

専門分野 I 基礎看護学	科目名：日常生活の援助技術 I 【環境】	★ 専任教員（看護師）	1 単位 30 時間 (1 年次前期)
学習目標	1. 環境調整の意義を理解し、快適な療養環境を整えるための技術を習得する。		
回数	主題	主な習内容	講義形態
1	1. 環境とは	1) 人間の健康と環境	講義
2	2. 人々の生活環境	生活環境の調整：家庭の暮らし 生活環境の調整：地域の暮らし	講義
3	3. 療養生活の環境	2) 生活環境の調整 (温度、湿度、照度、騒音、換気、採光、臭気、 色彩、プライバシー)	講義
4			演習
5			見学等
6	4. 病室環境	1) 病室の構成 2) 病院で働く人々 (シャドー) 3) 療養環境のアセスメント ①病棟見学 (ICT) (病棟の構造、病室の構成、病室の環境測定)	講義
7			GW
8			講義
9			実習
10	5. 療養環境の整備	1) ベッド周囲の環境整備 2) ベッドメイキング 3) 臥床患者のリネン交換 事例に応じた援助	講義演習
11			講義演習
12			講義演習
13			演習
14	技術確認	環境整備などにかかわる技術チェック	演習
15	終講試験	筆記試験/まとめ	
履修上の留意点		<ul style="list-style-type: none"> すべての時間は講義形式を基本とするが、学生の能動的な学びを促すために適宜グループワークを取り入れる。 提示される DVD 等動画を活用し、校内実習前後の自己学習を行い参加する。 	
1) テキスト 2) 参考書		1) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 1) ナイチンゲール著：看護覚え書き、現代社 2) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院	
評価方法		1. 筆記試験	

★ 実務経験がある教員

専門分野 I 基礎看護学	科目名：日常生活の援助技術Ⅱ 【食事・排泄】	★ 専任教員（看護師）	1 単位 30 時間 (1 年次後期)
学習目標	1. 栄養状態を整える意義を理解し、対象の状態に適した食事援助の技術を習得する。 2. 排泄を整える意義を理解し、対象の状態に適した排泄の援助技術を習得する。		
回数	主題	主な学習内容	授業形態
1	1. 人間の健康と食事	1) 食事の意義 2) 健康な食生活 3) 栄養状態のアセスメント 4) 摂食能力および食欲、食に関する認識のアセスメント	講義
2			
3	2. 医療施設で提供される食事	1) 食事の種類と形態 2) 食事の提供方法	講義
4	3. 食事の援助	1) 経口的栄養摂取の援助 (1) 食事の介助 (2) 嚥下訓練 2) 非経口的栄養摂取の援助 (1) 胃管 ストマ管理	講義
5			講義 演習
6			講義
7	4. 人間の健康と排泄	1) 排泄の意義 羞恥心とプライバシー 2) 排泄行動のアセスメント 3) 排泄物の観察アセスメント	講義
8			
9	5. 対象の状態に応じた排泄の援助	1) 自然な排泄を促す援助 (腹部のマッサージ、排便コントロール) (1) 便器・尿器を用いた排泄の介助 2) 対象の状態に応じた援助 3) 排泄を促す医療処置を伴う援助 (1) 一時的導尿・持続的導尿 (2) 留置カテーテルの管理 (3) 浣腸	演習
10			
11			
12			
13			
14			
15	終講試験	筆記試験 45 分・まとめ 45 分	
履修上の注意		1. テキスト・参考図書を活用して、予習をして授業に臨むこと 2. グループワークでは、他者の意見を積極的に聞き、自己の意見を述べること。 3. 計画的に技術練習をして、食事や排泄の援助技術に臨むこと	
1) テキスト 2) 参考書		1) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 2) 根拠と事故防止から見た 基礎・臨床看護技術 医学書院	
評価方法		1. 筆記試験(食事：50 点 排泄：50 点 計 100 点)を実施する	

★ 実務経験がある教員

専門分野 I 基礎看護学	科目名:日常生活の援助技術Ⅲ 【姿勢と体位】【睡眠・休息】	★ 専任教員 (看護師)	1 単位 30 時間 (1 年次前期)
学習目標	1. さまざまな移動方法を理解し、対象の状態・状況に応じた安全・安楽な移動技術を習得する。 2. 休息の種類と意義を理解し、適切な睡眠・休息を促すための援助技術を習得する。		
回数	主題	主な学習内容	講義形態
1	1. 人間の活動	1)活動とは 2)よい姿勢とボディメカニクス 3)活動・運動の能力のアセスメント	講義
2			
3	2. 姿勢と体位	1)体位・体位変換、安楽な体位の調整(ポジショニング) (1)安楽な体位の調整 (2)体位変換 (3)車椅子・ストレッチャーへの移乗・移送 (4)歩行・移動介助	講義
4			
5	3. 移動・移乗動作の 援助	1)歩行介助 2)車椅子、輸送車への移乗動作介助・移送 3)運動機能維持・拡大に向けた援助(自動・他動運動の援助、ROM)	演習
6			
7			
8			
9			
10	4. 睡眠・休息の援助	1)休息の種類と意義 2)睡眠・休息状態のアセスメント 3)安楽な休息・睡眠を促す援助方法 4)睡眠障害とその援助方法 5)安静の弊害	講義
11			演習
12	5. 安楽確保の技術	1)リラクゼーション (1)安楽の促進のためのケア 2)褥瘡	演習
13			
14			
15	終講試験	筆記試験・まとめ	
履修上の留意点		<ul style="list-style-type: none"> すべての時間は講義形式を基本とするが、学生の学びを促すために、適宜グループワークを取り入れる。 提示される DVD 等動画を活用し、校内実習前後の自己学習を行い参加する。 	
1)テキスト 2)参考書		1)系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2)根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院	
評価方法		1. 筆記試験	

★ 実務経験がある教員

専門分野 I 基礎看護学	科目名：日常生活の援助技術IV 【清潔・衣生活】	★ 専任教員（看護師） ★ 専任教員（看護師）	1 単位 30 時間 (1 年次前期)	
学習目標	1. 療養生活における衣服の機能を理解し、対象に適した衣服を整える援助技術を習得する。 2. 身体の清潔を保つ意義を理解し、対象の状態に適した清潔保持の技術を習得する。			
回数	主題	主な学習内容	講義形態	
1	1. 療養生活における衣服の機能	1) 衣服を身につける意義	講義	
2		2) 病衣の種類と選び方	講義	
3	2. 対象の状態に適した寝衣交換	1) 和式寝衣の交換 2) プルオーバー式の寝衣の交換	演習	
4	3. 人間の健康と清潔	1) 清潔の意義 2) 身体各部の清潔の援助方法 (1) 清潔援助のアセスメント (2) 援助の必要性の判断 (3) 援助方法の選択	講義	
5				
6				
7		3) 口腔ケア（歯磨き）	演習	
8		4) 洗髪		講義 演習
9				
10		5) 清拭		演習
11				
12				
13	6) 部分清拭 ①手浴・足浴 ②陰部洗浄	演習		
14	技術チェック	清潔に関する技術のチェック	演習	
15	終講試験	筆記試験/まとめ		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> すべての時間は講義形式を基本とするが、学生の学びを促すために適宜グループワークを取り入れる。技術は自主練習を行うこと。 提示される DVD 等動画を活用し、校内実習前後の自己学習を行い参加する。 			
1) テキスト 2) 参考書	1) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
評価方法	1. 筆記試験			

★ 実務経験がある教員

専門分野 I 基礎看護学	科目名：ヘルスアセスメント	★専任教員（看護師）	1 単位 30 時間 (1 年次前期)
学習目標	1. 対象の健康状態について、身体的側面および心理・社会的側面から情報収集し、総合的にアセスメントするための基本的知識と技術を習得する。 2. 身体的側面については、フィジカルイグザミネーション（身体診査）の基本技法を系統的に習得する。 3. 心理・社会的側面については、必要な理論やツールを用いてアセスメントの視点について理解する。		
回数	主題	主な学習内容	講義形態
1	1. 看護におけるヘルスアセスメント	1) ヘルスアセスメントの考え方 2) アセスメントプロセス（ゴードン）	講義
2			講義
3	2. 問診・インタビュー、ヘルスヒストリー（健康歴）	1) 問診・インタビュー 2) ヘルスヒストリー（健康歴）	講義
4			講義
5	3. フィジカルアセスメント	1) ヘルスアセスメントの基本技術 2) 身体各部の測定 (モニタリング・フィジカルイクザミネーション) バイタルサインの実際	講義
6			講義
7			演習
8			
9			
10	4. 系統別アセスメント	1) 系統的フィジカルアセスメントの実際 (1) 呼吸器系 (2) 心臓・循環器系 (3) 腹部・消化器系 (4) 筋・骨格系 (5) 神経系 (6) 頭部、頸部、視聴覚系	演習
11			
12			
13	5. 心理・社会的側面からのアセスメント	1) 心理・社会的側面からのアセスメント 身体的・精神的・社会的痛みについて	講義
14	技術演習	技術チェック	試験
15	終講試験	筆記試験	
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的・精神的・社会的痛みについて学習する。 ・系統的アセスメントおよび心理・社会的側面からのアセスメントの分類はアセスメントツールを使用する。 ・アセスメントの視点と方法については、アセスメントツールの主要な項目を通して学ぶ ・看護の展開方法に先行して学習する。 		
1) テキスト 2) 参考書	1) 系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 I 基礎看護学 医学書院 2) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 2) フィジカルアセスメントガイドブック 目と手と耳でここまでわかる 医学書院		
評価方法	1. 筆記試験		

★ 実務経験がある教員

専門分野 I 基礎看護学	科目名：看護の展開方法	★ 専任教員（看護師）	1 単位 30 時間 (1 年次後期)
学習目標	1. 対象の持つ健康上の問題を明らかにして、その問題を解決するための系統的で意図的な思考過程としての看護の展開方法を理解する。		
回数	主題	主な学習内容	講義形態
1	1. 看護過程の基盤となる考え方	1) クリティカルシンキング 2) リフレクション(内省・省察・熟考) 3) 臨床判断モデル	講義 演習
2	2. 看護モデルと アセスメント分析	1) 看護モデルとアセスメント分析 2) 系統的情報収集	
3		(1) 観察含む	
4		(2) 情報の種類(O データ、S データ) 3) データ収集法	
5	3. 看護過程	1) アセスメント (1) 情報の分類・整理	
6		(2) 情報の分析方法 (原因・現状・成り行き)の推測・判断	
7		(3) 総合 (4) 全体像の把握	
8		2) 看護問題の明確化(看護診断、共同問題) (1) 看護診断の定義 (2) 優先順位の決定	
9		3) 看護目標と看護計画 (1) 期待される成果の明確化・看護目標	
10		(2) 看護計画の立案	
11		4) 看護の実践 (実施)	
12		5) 評価・修正 (1) 評価の方法	
13		(2) 対象の日々の健康状態の変化に合わせた計画の修正 (3) 期待される成果や患者の反応に合わせた計画の修正	
14		リフレクション	
15	終講試験	筆記試験・まとめ	
履修上の留意点	1. すべての時間は講義形式を基本とするが、学生の学びを促すために適宜グループワークを取り入れる。 2. 学習内容にそってレポート課題を提示する。 <演習>・シミュレーション学習等を通じてアセスメント・看護診断・計画・実施・評価の段階における関連性と連続性を理解させる。		
1) テキスト 2) 参考書	1) 系統看護学講座 専門2 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I、医学書院 1) 看護診断ハンドブック 第11版、医学書院 1) ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント、ヌーヴェルビヨリ *その他、授業のなかで随時紹介する		
評価方法	1. 筆記試験 2. レポート		

★ 実務経験がある教員

専門分野 I 基礎看護学	科目名：診療に伴う技術 I	★ 専任教員（看護師） ★ 専任教員（看護師）	1 単位 30 時間 (1 年次後期)
学習目標	1. 診察と検査の意義、目的を理解し、診察・検査・処置をうける対象への看護技術を習得する。		
回数	主題	主な学習内容	講義形態
1	1. 診療の補助技術と看護師の役割	1) 診察・検査・処置の目的	講義
2	2. 診察時の看護	2) 診療における看護師の役割と倫理	講義演習
3	3. 検査時の看護	1) 検体検査（尿・血液・痰検査） 検体採取（採血）	講義演習
4			
5		2) 生体検査（心電図）	講義演習
6			
7	4. 穿刺・洗浄時の看護	1) 穿刺時の看護 2) 洗浄時の看護	講義演習
8	5. 救急法と看護	1) 救命救急技術	講義演習
9			
10	6. 創傷管理	1) 創傷の治癒過程と影響因子 2) 創の種類 3) ドレッシング材の種類と特徴 4) 包帯法	講義演習
11	7. 酸素療法時の看護	1) 酸素吸入療法の目的と種類 2) 使用器具の種類と特徴・取り扱い、援助方法	講義演習
12	8. 吸引時の看護	1) 排痰のケア・吸入 2) 吸引	講義演習
13	9. ME 機器の原理と看護の役割	1) 輸液ポンプ・シリンジポンプ 2) 心電図 3) パルスオキシメーター 4) 人工呼吸器 など	講義 演習
14	技術チェック	診療の補助技術（採血）の技術チェック	演習
15	終講試験	筆記試験、まとめ	
履修上の留意点		1. 常にテキストは、基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 2. 配布資料はすべて持参 3. 学習形態はその都度指示 4. 侵襲のある演習を行う場合、教員の見守りが必要である。	
1) テキスト 2) 参考書		1) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔3〕基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 2) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院	
評価方法		1. 筆記試験	

★ 実務経験がある教員

専門分野 I 基礎看護学	科目名：診療に伴う技術 II	★ 専任教員（看護師）	1 単位 30 時間 (1 年時後期)
学習目標	1. 薬物を取り扱う際のチームにおける看護師の責任と役割を理解する。 2. 薬物療法の意義・目的を理解し、薬物療法を受ける対象への看護技術を習得する。		
回数	主題	主な学習内容	講義形態
1	1. 薬物療法時の看護師の役割	1) 正しい与薬 (1) 与薬の基礎知識	講義
2		2) 薬の管理 (毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤・抗悪性腫瘍薬を含む)	講義 演習
3	2. 与薬の技術（経口）	1) 経口与薬・口腔内与薬	講義 DVD
4			
5	3. 与薬の技術（吸入）	2) 吸入 超音波ネブライザー 姿勢の保持、口腔内の洗浄	講義 演習
6			
7	4. 与薬の技術（点眼）	3) 点眼 4) 点鼻 5) 経皮的与薬 6) 直腸内与薬	講義 DVD
8	5. 与薬の技術（点鼻）		
9	6. 与薬の技術（注射）		
10			
11			
12			
13	7. 与薬の技術（輸血管理）	1) 援助の基礎知識 2) 主な輸血製剤 3) 輸血による副作用 4) 実施前の評価 5) 実施方法と観察	講義 DVD 演習
14			
15	終講試験	筆記試験 45 分・まとめ 45 分	
履修上の注意	1. テキストは必ず持参。配布資料はすべて持参。学習形態はその都度指示する。 2. 侵襲のある技術を行う場合、教員の見守りが必要である。		
1) テキスト 2) 参考書	1) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護学技術 II 医学書院 2) 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院		
評価方法	筆記試験		

★ 実務経験がある教員

専門分野 成人看護学	科目名：成人看護学概論	★ 専任教員（看護師） ★ 臨床看護師	1 単位 30 時間 (1 年次後期)
学習目標	1. 成人期における対象の特徴を理解する。 2. 成人期における対象への看護の機能・役割について理解する。 3. 成人期における保健活動の意義、健康の保持増進を図る援助を理解する。 4. 健康障害時の健康レベルに応じた看護方法を理解する。		
回数	主題	主な学習内容	授業形態
1	I.成人期における看護の理解	1) 青年期の成長と発達課題の特徴 2) 壮年期・中年期の成長と発達課題の特徴	講義 グループワーク
2	1. 成人各期における特徴	1) グループワーク発表	グループワーク
3	2. 成人の生活と健康	1) 生活の視点からみた成人の健康 2) 成人の健康観 3) 健康教育 (1) セルフマネジメント、ペタゴジー、 アンドラゴジー、 エンパワーメントエデュケーション	講義
4	2. 健康を阻害する生活行動要因	1) 健康を阻害する生活行動要因 (1) 健康な生活の保持・増進への看護 ①生活習慣病予防 ②ストレス ③職業に関連する健康障害 (2) 健康診断の重要性と健康生活保持のための指導 (3) 健康増進・疾病予防に伴う施策や取り組み	グループワーク
5		2) グループワーク発表	
6	3. 看護の対象・看護の視点	1) 主体的な健康行動の促進 2) 健康生活を支援する環境づくり 3) 看護の場 4) 主な活動内容	講義
7	4. 成人の特性や能力に応じた看護の目的	1) 自立した存在を尊重したアプローチ 2) 独自の考えや行動パターンを尊重したアプローチ 3) 家庭・社会で役割を担う存在を尊重したアプローチ	講義
8	II.健康レベル（経過別）に応じた看護 1. 急性期看護とは	1) 健康レベルとは 2) 急性期看護とは (1) 急性期の概念および看護の概要 (2) 生命の危機状態 (3) 急激な健康破綻をきたした人の看護 (4) 健康状態が急速に変化する対象の身体的・心理的・社会的特徴 (5) 早期回復に向けての援助 (酸化促進、消化管機能維持、体液の改善)	グループワーク
9	2. 回復期看護とは	1) 回復期の概念および看護の概要 2) リハビリテーションの概念および看護の概要 3) 社会復帰に向けた看護の概要	講義
10	3. 慢性期看護とは	1) 慢性期の概念および看護の概要 (1) 慢性期の健康状態とは (2) 慢性的経過をたどる対象の身体的・精神的・社会的特徴	講義

		(3) セルフコントロールへの援助 (4) 慢性期の寛解と増悪	
11	4. 終末期看護とは	1) 終末期の概念および看護の概要 (1) 終末期にある対象の身体的・精神的・社会的影響と苦痛 (2) 苦痛のアセスメント (3) 疼痛コントロール (4) QOLの保証 (5) グリーフケア・悲嘆へのケア (6) デスカンファレンス (7) 看取りの場(緩和ケア病棟、在宅) (8) 臨終時の看護(死後の処置を含む)	講義
12			
13	Ⅲ.症状マネジメントに向けた支援治療と看護	1) 手術療法時の看護 2) 食事療法時の看護 3) 薬物療法時の看護(化学療法時の看護) 4) 放射線療法時の看護	講義
14			講義
15			
	終講試験	筆記試験	
履修上の留意点		1. 常にテキストは持参する事 グループワークはIT、シミュレーターを活用する	
1. テキスト 2. 参考書		1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院 2. 国民衛生の動向 一般財団法人 厚生労働統計協会	
評価方法		1. 筆記試験	

★ 実務経験がある教員

専門分野 成人看護学	科目名：成人看護学演習	★ 専任教員（看護師） ★ 専任教員（看護師）	1 単位 30 時間 (2 年次後期)
学習目標	1. 成人期を対象とした看護過程展開ができる。 2. 成人期の看護に必要な看護技術を習得する。		
回数	主題	主な学習内容	授業形態
1	1. 看護過程展開	1) 手術を受ける胃癌患者の看護（急性期・回復期・退院指導を含む） （1）周術期看護とは ①手術療法と患者の身体的、心理的反応 ・手術による身体の影響 ・体位の影響 ・術式の影響 （2）集中治療と看護 ① 術後看護：術後合併症の発生机序と種類 ② 術後看護：起こりやすい合併症の予防と看護 ③ 術後看護：リハビリテーションと生活復帰のための看護	講義
2		2) 胃癌の病態生理 3) 手術による身体の影響 4) 体位の影響（術式の影響、術後合併症の起こりやすい時期、予防、看護）	講義 個人ワーク
3		5) 看護過程展開の実際 事例紹介 情報の整理、アセスメント、病態関連図作成	講義 演習 グループワーク
4			
5			
6		6) グループワーク発表 （1）グループごとアセスメントを発表 （2）看護問題の明確化、看護計画立案、発表 （3）意見交換	演習
7		7) 演習(援助の実際・場面ごとの判断) 場面 手術直後の看護の実際	講義 グループワーク
8			
9	2. 指導技術（個別）	1) 意思決定支援 （1）パンフレットによる周術期支援 ①手術オリエンテーションのパンフレット作成 ②退院指導についてのパンフレット作成 （2）パンフレットによる周術期支援 ①グループワーク発表	講義 グループワーク
10			
11	3. 救命救急	1) 救命救急の看護 （1）緊急度と重症度のアセスメント （2）心肺停止状態への処置 （3）ショックへの処置 （4）急性症状の応急処置	講義
12		（5）外傷・熱傷・中毒の応急処置 （6）環境要因による障害の応急処置 （7）感染症への処置	講義
13		2) 気道確保（挿管）・人工呼吸 3) 気管内吸引	講義
14		4) 意識レベルの見方の実際 5) 心臓マッサージ・AED	講義 演習
15		終講試験	筆記試験・まとめ
履修上の留意点	基礎疾患・手術適応疾患については、解剖、病態生理、検査、治療、看護を事前にテキスト等で復習しておくこと。課題レポートについては、授業の中で提示する。提出期限を厳守すること。グループワークは IT 活用、シミュレーター使用		
1. テキスト 2. 参考書	1. 系統看護学講座専門Ⅱ 成人看護学⑥「内分泌・代謝」「消化器」 別巻「臨床外科看護総論」医学書院 新体系 看護学全書 経過別成人看護学③「慢性期看護」メヂカルフレンド社 2. 周術期看護 学習ワークブック メヂカルフレンド社 新体系 看護学全書 経過別成人看護学①「周術期看護」メヂカルフレンド社 高木永子監修 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 学研		
評価方法	1. 課題レポート 2. 筆記試験		

★ 実務経験がある教員

老年看護学		科目名：高齢者看護学概論	★ 専任教員（看護師）	1 単位 15 時間 (1 年次後期)
学習目標		1. 高齢者の身体的・社会的・精神的特徴とその生活について理解できる。 2. 社会構造の変化と保健医療福祉制度の動向を理解できる。 3. 老年期における健康課題と看護の役割について理解できる。		
回数	主題	主な学習内容		講義形態
1	1. ライフサイクルからの老年期の理解	1) 老年期の定義 (1) 超高齢社会の現況と将来像 (2) 高齢者の健康の捉え方・老年期の位置づけ 2) 加齢と老化 3) 老年期の発達課題 エリクソン、ベック、バトラー		講義
2	2. 生活史からの高齢者の理解	1) 生活史から見た高齢者 高齢者の生きてきた時代 2) 高齢者の多様性 人生と経験・価値観の多様性		講義
	3. 高齢者の生活の変化	1) 生活の場、住宅環境 2) 生活リズムと生活習慣 3) 役割と生活活動、余暇活動 4) 就労・雇用 5) 収入・生計		
3	4. 加齢に伴う変化	1) 加齢に伴う変化の特徴 2) 身体的変化と健康課題 神経系、運動器、感覚器、循環器、造血器・免疫系、呼吸器、消化器、代謝系、泌尿器、内分泌、生殖器、性機能		講義
	5. 老年期の健康課題	3) 精神的変化と健康課題 認知機能、心理的機能、スピリチュアリティ 4) 社会的変化と健康課題 役割の変化 5) セルフケア		
4	6. 高齢者と家族	1) 家族構成の変化 2) 家族形態の変化 3) 高齢者と家族の人間関係 4) 家族と介護		
	7. 高齢者と QOL	1) 老年者の尊厳と権利 2) ノーマライゼーション 3) 自立支援 4) フォーマルサービス・インフォーマルサポート		
5	8. 高齢者の保健・医療・福祉の動向	1) 人口学指標 2) 健康指標 3) 老人保健法 4) 老人福祉法 5) 老人医療制度 長寿医療制度 6) 年金制度 7) 介護保険 8) 医療費の助成制度の活用 9) 保健医療福祉施設		講義
6	9. 健康増進・疾病予防に伴う施策や取り組み	1. 超高齢社会における保健医療福祉の動向 1) 健康状態が急速に変化する対象の身体的・心理的・社会的特徴 (1) 高齢者の健康状態と疾患の特徴、死亡率と死因		講義
	10. 生活(療養)の場に応じた看護(病院・施設・在宅等)	1) 多職種連携と看護活動の場の多様化 (1) 高齢者の生活と健康を支える多様な場 (2) 看護職の活動の拡大と専門化		

7	1 1. 老年看護における倫理的課題	1) QOLの保障・権利擁護 (1)虐待 (2)身体拘束・抑制 (3)地域福祉権利擁護事業・成年後見制度	講義
	1 2. 老年看護の役割	1) 経過に応じた看護 2) 治療に応じた看護 3) 老年看護を支える看護理論	
7	終講時試験	単位認定試験	試験
履修上の留意点		1. すべての時間は講義形式を基本とするが、学生の学びを促すために適宜グループワークを取り入れる。 2. 授業者が、学習内容にそってグループワークやレポート課題を提示する。 3. 講義にはパワーポイント・DVD等映像教材を用いる。	
1) テキスト 2) 参考書		1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾病 医学書院 2) 老年看護学Ⅰ 老年看護学概論/老年保健 メヂカルフレンド社 2) 国民衛生の動向 一般財団法人 厚生労働統計協会	
評価方法		1. 筆記試験 2. レポート	

★ 実務経験がある教員

老年看護学	科目名：高齢者看護学演習	★ 専任教員（看護師）	1 単位 30 時間 (2 年次前期)
学習目標	1. 高齢者を対象とした看護過程の展開ができる 2. 高齢者およびその家族に必要な看護技術を習得できる		
回数	主題	主な学習内容	講義形態
1	1. 看護過程展開① 情報収集・アセスメント	看護展開に必要な基盤となる考え方	講義
2		1) 生活機能という考え方 2) 生活行動モデル	
3		【事例紹介 回復期：大腿骨頸部骨折】 高齢者の生活機能と今後の生活を見据えた情報収集・アセスメント	
4	2. 看護過程展開② 関連図	病態と生活機能関連図 1) 疾患の病態生理・治療と加齢に伴う変化 2) 疾患とその看護	講義
5	3. 看護過程展開③ 看護診断の明確化 目標設定	目標志向型思考の「看護の焦点」	
6		1) 高齢者に特徴的な健康問題・看護診断の関連 2) 高齢者の長期目標・短期目標設定	
7	4. 看護過程展開④ 看護計画立案・実施・評価	1) 高齢者が望む生活を踏まえた看護評価の必要性	講義 演習
8		2) 高齢者の退院支援	
9		・退院支援スクリーニング	
10			
11	5. 看護過程展開の実際	1) 指導技術(個別)	演習
12		1) 片麻痺患者の移動	
13		2) 良肢位	演習
14		3) 義歯の取り扱い 2) 指導技術(個別) 片麻痺患者の移動 良肢位 義歯の取り扱い	
15	まとめ	老年看護の思考・実践の展開のまとめ	講義 まとめ
履修上の留意点	1. 講義形式を基本とするが、学生の学びを促すために適宜グループワークを取り入れる。授業者が学習内容にそってグループワークやレポート課題を提示する。 2. 講義にはパワーポイントと DVD を用いる。 3. 老年看護学の各科目を土台に学習していくため、必要時予習課題を提示する。また高齢者を対象にした演習では状況判断・実施・評価を行う。基礎看護技術及び高齢者の生活援助技術の復習を行うこと。		

<p>1) テキスト名 2) 参考書</p>	<p>1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 1) 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術 メヂカルフレンド社 2) 高木永子監修 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 学研</p>
<p>評価方法</p>	<p>1. 課題レポート評価</p>

★ 実務経験がある教員

専門分野Ⅱ 小児看護学	科目名：小児看護学概論	★ 専任教員（看護師）	1 単位 15 時間 (1 年次後期)
学習目標	1. 小児期にある対象を理解する。 2. 小児看護の役割・機能を理解する。 3. 母子保健、小児保健のあり方について理解する。 4. 子どもの権利を保障することの必要性について理解する。		
回数	主題	主な学習内容	講義形態
1	1. 小児看護の対象と役割	1)小児看護の対象	講義
2		2)小児看護の役割 (1)小児看護と家族 (2)子どもと家族を看護する看護師の役割 3)健康の保持・増進のための看護の場と活動 4)小児の発達理論	講義 演習
3	2. 小児医療 小児看護の変遷	1)小児医療・小児看護の変遷 2) 小児医療・看護の課題	講義
4	3. 母子保健と小児保健	1)小児の保健統計 (在宅における小児看護含む) 2)母子保健の動向	講義 演習
5	4. 子どもの人権と看護	1)医療現場で起こりやすい問題点 (1) 治療の選択と意思決定 (2) 倫理的問題 (3)教育	
6		2)子どもをとりまく社会の変化 (1)児童福祉 (2)母子保健 (3)医療費の支援 (4)予防接種 (5)学校保健 (6)食育・特別支援教育 (7)臓器移植	講義 演習
7		3)子どもの権利に関わる法規 (1) 児童憲章・子どもの権利宣言・児童の権利に関する条約 (2) 小児看護の日常的な臨床現場での倫理的課題の指針 4)アドボカシー (自己決定・倫理原則)	講義 演習
8	終講試験	筆記試験	
履修上の留意点		1. 常に持参のテキストは「小児看護学概論 小児臨床看護総論」 他は必要時指示。調べ学習などを行い能動的に学習する 2. 配付資料はすべて持参 3. 学習形態はその都度指示	
1) テキスト 2) 参考書	1)系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔1〕小児看護学概論/小児臨床看護総論 医学書院 2)国民衛生の動向 一般財団法人 厚生労働統計協会		
評価方法	筆記試験		

★ 実務経験がある教員

専門分野Ⅱ 小児看護学	科目名：子どもの成長・発達に 応じた看護	★ 臨床看護師	1単位30時間 (2年次前期)
学習目標	1. 子どもの成長・発達について理解する。 2. 子どもの成長・発達段階に応じた健康増進の看護について理解する。		
回数	主題	主な学習内容	授業形態
1	1. 子どもの成長・発達	1) 成長・発達の概念	講義
2		2) 形態的成長・発達 (身長・体重・頭部・胸部・歯・骨)	講義 演習
3		3) 機能的発達(呼吸・循環・血液・体温)	講義
4		3) 機能的発達(消化吸収・水分と電解質・ 神経系・免疫・感覚・運動神経)	講義 演習
5		4) 心理・社会的発達(認知・情緒)	講義
6		5) 心理・社会的発達 (社会性・コミュニケーション能力・遊び)	講義 演習
7		6) 性の発達	講義・演習
8		7) 子どもの発達課題	講義・演習
9	2. 子どもの発達段階に応じた 健康増進のための看護	1) 新生児・乳児の健康増進のための看護 起こりやすい事故とその予防	講義 演習
10			
11	3. 子どもに起こりやすい事故 とその予防	2) 幼児の健康増進のための看護 起こりやすい事故とその予防	講義 演習
12		3) 学童の健康増進のための看護 起こりやすい事故とその予防	講義 演習
13		4) 思春期の健康増進のための看護 起こりやすい事故とその予防	講義 演習
14		グループ 発表・まとめ	演習
15	終講試験	筆記試験、まとめ	
履修上の留意点	1. 常に持参のテキストは「小児看護学概論 小児臨床看護総論」 他は必要時指示 2. 配付資料はすべて持参 3. 学習形態はその都度指示、 課題の取り組みなど、能動的に参加する		
1) テキスト	1) 系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔1〕小児看護学概論 ・小児臨床看護総論 医学書院 2) 看護実践のための根拠がわかる小児看護技術 メジカルフレンド社		
評価方法	1. 筆記試験 2. レポート		

★ 実務経験がある教員

専門分野Ⅱ 小児看護学	科目名：小児看護学演習	★ 専任教員（看護師）	1 単位 30 時間 (2 年次後期)
学習目標	1. 子どもの成長・発達についてアセスメントできる。 2. 病気や入院が子どもや家族に与える影響とその看護が理解する。 3. 子どもに対する基本的看護技術の習得ができる。		
回数	主題	主な学習内容	授業形態
1	1. 発育・発達の評価	1) 健康障害をもつ小児の身体発育・機能的発達・心理社会的発達のアセスメント ①新生児・乳児	講義
2		1) 健康障害をもつ小児の身体発育・機能的発達・心理社会的発達のアセスメント ②幼児・学童	講義
3		1) 健康障害をもつ小児の身体発育・機能的発達・心理社会的発達のアセスメント ③思春期	講義
4	2. 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護	事例による検討 (①新生児・乳児 ②幼児・学童 ③思春期) 1) 病気や入院が子どもに与える影響のアセスメント	講義 演習
5		事例による検討 (①新生児・乳児 ②幼児・学童 ③思春期) 2) 子どもにあった入院環境	講義 演習
6		事例による検討 (①新生児・乳児 ②幼児・学童 ③思春期) 3) 入院適応に向けての看護	講義 演習
7	3. 小児看護に必要な技術	1) コミュニケーション技術 (1) 発達段階に応じたコミュニケーションの特徴 (幼児・学童・思春期)	演習
8		(2) 言語・非言語を含めたコミュニケーションの方法	演習
9		2) 発達に応じた説明と同意	演習
10		検査を受ける小児へのプレパレーション	演習
11		3) フィジカルアセスメント ①バイタルサイン測定 ②身体測定	演習
12		③輸液の管理と点滴時のシーネ固定	演習
13		4) 診療に伴う援助技術 ①与薬 (内服、座薬、吸入) ②吸引、採血、点滴	演習
14		5) 遊びへの援助 発達段階や安静度に応じた遊び	演習
15	まとめ	発表・まとめ	

履修上の留意点	1. 常に持参のテキストは「小児看護学概論 小児臨床看護総論」「小児臨床看護各論」 他は必要時指示 2. 配付資料はすべて持参 3. 学習形態はその都度指示
1) テキスト 2) 参考書	1) 系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔1〕小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論 医学書院 2) 看護実践のための根拠がわかる 小児看護技術
評価方法	1. レポート

★ 実務経験がある教員

専門分野Ⅱ	科目名：精神看護学演習	★ 臨床看護師 ★ 臨床看護師 ★ 専任教員（看護師）	1 単位 30 時間 (2 年次後期)
学習目標	1. 精神に障害をもつ対象の看護過程の展開できる。 2. 対象との関わりについて振り返り方法を理解する。 3. レクリエーション等の企画、実施について考えられる。 4. 精神看護に特有な援助技術を理解する。		
回数	主題	主な学習内容	授業形態
1	1. 精神に障害のある対象（統合失調症）の看護過程の展開	1) 地域での生活を見据えた統合失調症をもつ人の事例をもとに看護過程の展開	講義 演習
2		(1) 対象理解に必要な情報収集・アセスメント	
3		①情報収集	
4		②プロセスレコード	
5		(2) 看護診断	
6		(3) 看護計画立案 (4) 看護実践 (5) 評価	
7	2. 看護援助技法演習	1) プロセスレコード（統合失調症患者の事例）	演習
8		(1) 発表（ロールプレイ）	演習
9		(2) グループ討議	演習
10		(3) 修正後の発表（ロールプレイ）	演習
11		2) レクリエーション、行事等の企画（統合失調症患者の事例）	演習
12		(1) レクリエーションの計画立案	演習
13		(2) 発表（ロールプレイ）	演習
14		(3) リフレクション	演習
15		3) SST(生活機能訓練)（統合失調症患者の事例）	演習
履修上の留意点	1. 常にテキストを持参 2. 配布資料は全て持参 3. 学習形態はその都度指示		
1) テキスト	1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 (1) 精神看護の基礎 医学書院		
2) 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 (2) 精神看護の展開 医学書院		
評価方法	1. レポート		

★ 実務経験がある教員